

＜東文研・ASNET共催セミナー＞

語り出す絵画

14世紀日本の絵巻にみる玄奘三蔵の物語をめぐって

絵画には多くの力が備わる。すぐれた絵画を目にした鑑賞者は、その超越的な美しさ、精緻な技量、あるいは究極の独創性などに畏敬の念を抱くかもしれない。また、ある絵画に対する評判が、それを実見していない者にさえ特別な感慨をもたらす場合もあるだろう。

「玄奘三蔵絵」(藤田美術館蔵)は、唐代の高僧である玄奘三蔵の、天竺への旅を主題とする12巻の絵巻で洗練された詞書と精巧な絵画が備わる。

14世紀の成立以後、南都興福寺に長らく秘蔵されていたが、早くも15世紀には貴顕の間で大きな評判を得ていた。この絵巻の威力は文化的な価値に限られたものではなく、宗教的かつ政治的な価値にも高い関心が持たれた。



本報告では、この絵巻の詞書と絵における相互作用を分析する。その際、絵巻の「内なる物語」つまり絵巻自体に備わる玄奘三蔵の物語と、「外の物語」すなわち宗教的かつ政治的な権威として本作に期待されていた機能の両面に留意しながら、詞書と絵、さらに関連テキストも含む相互作用の分析を試みる。

※ 報告は英語で行われます。

◆ 日 時: 2013年 10月 31日 (木) 17:00-18:00

◆ 報告者 レイチェル・サンダース氏 (東洋文化研究所 訪問研究員)

◆ 会 場: 東京大学 本郷キャンパス内 東洋文化研究所 1F ロビー

◆ 参加費: 無料 (申し込みは不要です)

東文研・ASNET共催セミナー

東洋文化研究所とASNETは毎週木曜日の夕方にセミナーを開催しています。どなたでもご参加頂けます。皆様のお越しをお待ちしております。詳しくはこちら: <http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

東大ASNET

検索

東京大学

日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

Network for Education and Research on Asia

